

平成29年6月20日（火）

平成29年度 「共生型地域福祉拠点」 推進セミナー（日高地区）

サポートセンター「えましあ」
『お互い様の関係づくり』を目指して



社会福祉法人 新冠ほくと園
サポートセンター「えましあ」
センター長 成田 英司

法人機構図

支援施設 節婦ほろしりの里

入所支援
(定員30)
※男性

短期入所事業
(定員2)

自立訓練
(定員12)

生活介護
(定員20)

就労移行支援
(定員6)

サポートセンター 「えましあ」

就労継続支援B型
(定員24)

ダイニングサロン
えましあ
店舗運営

共同生活援助事業
(定員 62)

【節婦地区】

- 「フレンド」＜通常型＞
- 「リぶ」＜夜勤型＞
- 「パル」＜アパート型＞

【新冠地区】

- 「中央ホーム」＜同居型＞
- 「シーサイド」＜同居型＞
- 「そら」＜通常型＞
- 「サンクス」＜通常型＞
- 「あみん」＜アパート型＞
- 「つばさ」＜夜勤型＞
- 「のぞみ」＜通常型＞

新冠町相談支援事業所
相談室かける

- 指定一般相談支援
- 指定特定相談支援
- 指定障害児相談支援
- 委託相談支援
- 自立相談支援

新冠町地域活動支援
センター

ミルト

就労継続支援B型
(定員 40)

手作り工房ミルト
店舗運営

喫茶「ぶれす」
店舗運営

新冠町子ども発達支援センター 「あおぞら」

- 児童発達支援
- 放課後等デイサービス
- 保育所等訪問支援

新冠町デイサービスセンター

- 指定介護予防通所介護
- 介護予防
- いきがい通所事業

◎各専門委員会

- 虐待防止対策委員会
- サービス向上委員会（サービス評価・業務改善）
- スキルアップ委員会（内部研修・外部研修）
- わいあい委員会（余暇推進・サークル活動・法人行事）
- 広報委員会（法人HP・法人誌）

サポートセンター「えましあ」概要



(事業名称) 地域介護・福祉空間整備事業
新冠町共生型つながり空間整備事業

(敷地面積) 2086.45㎡

(建物構造) 鉄骨造 二階建

(建築面積) 建築面積 281.8㎡ 延床面積 498.05㎡

(概要) 1F 作業室・相談室事務室・相談室・男女更衣室・多目的室・娯楽室・洗濯室・給湯室・
男女トイレ・エレベーター
2F サロン食堂・和室・厨房室・配膳室・喫煙室・事務所・多目的トイレ・男女トイレ・
2階ブリッジ

(設置場所) 新冠町字本町65番地17

電話 (0146) 47-2899

(設立日) 平成27年7月

背景として（社会の変化と地域福祉の課題）

◆社会構造や世帯構造の大きな変化

- 急激な少子高齢化と過疎化
- 地域コミュニティの維持が困難（自治会維持）
- 地域とのつながりの希薄化
- 老々介護者の増加
- 単身高齢者世帯の増加
- ニートやひきこもりの問題
- 雇用形態の変化
- 社会的孤立化 等



高齢者福祉の背景

新冠町の高齢化率 30.2%、平成31年には31%を超えると思定されている

平成29年5月現在	新冠町の総人口	5,735人
	高齢者人口	1,707人
	全世帯数	2,753世帯
	高齢者世帯	1,160世帯
	単身高齢者世帯	569世帯

- 単身高齢者や高齢者夫婦世帯の増加
- 高齢者の孤立化、ひきこもり、犯罪危険の増加、食事難民、孤独死 等の課題への対応

障がい福祉の背景

- 相談支援体制の体制整備と充実
- 入所からグループホームへの地域移行の促進
- 地域生活を支えるサービス基盤の充実
- 地域生活の継続支援（障がい者の高齢化と重度化、親の高齢化）
- 自立と社会参加の促進（地域社会との関わり）
- 矯正施設に入所している障がい者への支援体制
- 暮らしづらさを解消、差別等の解消
- 精神障がい者、発達障がい者の増加傾向、発達障がい者への支援の推進
- 精神障がい者の退院促進（地域生活移行）
- 医療を必要とする在宅の重度障がい者への支援、難病等である人の支援体制
- 就労支援の充実（一般就労推進、工賃増）
- 多様な就労の場や日中活動の確保
- 働く人材の確保、育成
- 災害に備えた地域づくりの推進
- 子ども発達支援の充実、家族への支援、教育との連携、障がい児支援体制の整備

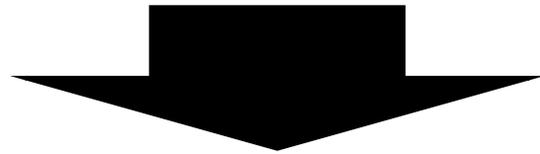
背景からみる地域福祉の視点

- 社会的排除や孤立の強いもののほど制度から漏れやすいこと
- 発生している問題が「見えにくい」問題になっていること
- これらの問題に対応するには、発見機能や問題解決機能を向上すること
- 今日的「つながり」の再構築が必要であること

今後の地域福祉に必要なポイントとして

1. 福祉サービスの在り方を、地域で暮らしていくことをサポートできるものにしていくこと。
2. 住み慣れた地域で暮らし続け、社会参加できる物理的・制度的な社会的環境をつくること。
3. 住民参加により共生の文化をもつ福祉コミュニティをつくること。

障がいの在る方が、入所施設からグループホームでの地域生活の移行が進む中、果たしてひとりの住民として、住み慣れた地域で本人が望む安心した暮らしになっているか。街の中にある小さな施設になってはいないか。本来の自立とは何か。障がいがあったとしても、住民の一員となり、暮らしづらさを解消し、安心した生活が送れるために、『生きやすい町』にするために今からどんな支援が必要なのか。



地域性を生かした『地域とのつながり支援』

『えましあ』のコンセプト



「共生」（ともいき）・「つながり」・「笑顔」・「学び」の
多世代交流ステーション

- 共生社会を目指し、相互に支え合うこのできる地域
- 地域の中での居場所や役割
- 「お互い様」という関係性
- インフォーマルなサービスで隙間解消

「地域と共にあゆむ」 （法人方針）

【この町の社会福祉法人としての役割】

- 小さな町だからこそ社会福祉法人は大きな社会資源であり町づくりの産業（ヒト・モノ・カネ）
- 社会福祉法人は「社会・地域における福祉の発展・充実が使命」を目的とした組織
- 町内のイベントや町内会活動での『参加』から『協働』へ。職員、利用者、地域の人と『共に汗を流す関係』
- 新冠町だから出来ることから始める （地域性を生かす） 『お互い様の地域づくり』が共生社会への一歩となり、信頼される社会福祉法人へとつながる。
逆に町民が社会福祉法人を支えてくれるようになる関係性

『えましあ』 地域のホットとスペース事業

- ダイニングサロンえましあで昼食と夕食を低価格で提供
(ワンコインビッフェ・ワンコイン御膳)
- 規格外野菜や魚 地元食材を使用した地産地食を目指し地域の味を伝承
農家さん・漁師さんとお互い様の関係
- 町の『食』を守る
- リラックススペース ホットとできる空間提供
(マッサージチェア・ホビースペース・ライブラリー・娯楽室・通信カラオケ・玄関血圧計・障がいの在る方のアートギャラリー 等)
- 全国の障がい事業所との「食・ものネットワーク」での取引 (工賃向上)



障がい者アート



『えましあ』 多世代交流事業

＜高齢者や子ども、障がいの在る方など町民誰もが参加できる交流活動の機会＞

- ・ 高齢者がその経験を活かした指導を行い活躍の場や居場所（役割）作りを行うことによって介護予防へとつなげる
- ・ 障がいの在る方の社会適応能力の向上をはかる・住みやすい、生きやすい環境づくり
- ・ 子ども達は、関わりの中から福祉に触れ、高齢者や障がいへの理解。ボランティアの輪を広げるなど、将来の福祉の担い手へのきっかけ作り

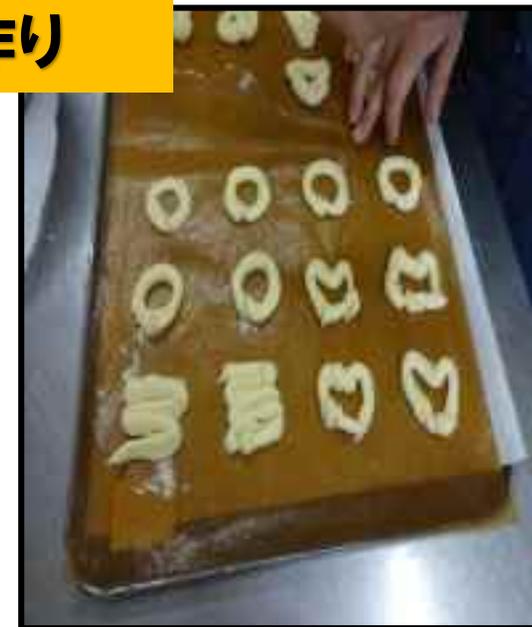


- ふれあい事業の実施
- 地域コーディネーターの配置
- ふれあい企画検討委員会の毎月開催（町民11名で構成）
メンバー（民生委員・元校長・社会教育課・保健福祉課・社会福祉協議会・
商工会青年部・青年団体協議会・農家・住職・小学生の母親・障がいの在る方）



自立支援協議会へ町民の声として意見要望していく

ふれあい ホワイトディ クッキー作り



利用者スタッフが講師となって小学生に教えます

ふれあい えましあ農園



高齢者が、子供や利用者に教えながら

えましあ農園 サポートズクラブ 設立



ふれあい事業の実施状況

実施日	事業名	講師	参加者
H27.11.8	地域ふれあい餅つき大会	地域の高齢者・ミルトの利用者	51名
H27.11.20	ふれあい自家製漬物作り	地域の高齢者	8名
H28.1.11	ふれあい 親子「メロンパン・ピザ」作り	ミルトの利用者	23名
H28.2.7	ふれあい昔のおもちゃ作り（竹とんぼ・竹笛）	地域の高齢者	16名
H28.5.5	ふれあい子ども事業（手品・読み聞かせ 等）	地域住民	50名
H28.6.5	ふれあい農園作り（えましか農園）	農家・地域の高齢者	32名
H28.7.25	ふれあい親子「パン・バター」作り	ミルトの利用者	37名
H28.8.5	ふれあい映画上映会「ゆめのほとり」		129名
H28.8.6	えましか祭り		(500) 名
H28.8.6	ふれあいこども小石で遊ぼう	地域の高齢者	22名
H28.9.4	ふれあい えましか農園収穫祭	農家・地域の高齢者	47名
H28.11.16	地域ふれあい餅つき大会	地域の高齢者・ミルト利用者	43名
H18.11.20	ふれあい 自家製漬物づくり	地域の高齢者	5名
H28.12.11	ふれあい クリスマスリース作り	花屋さん	27名
H29.1.14	冬休み こどもふれあい事業（凧作り・凧揚げ）	地域の高齢者	30名
H.29.2.12	ふれあい バレンタインチョコ作り	ミルトの利用者	10名
H29.3.12	ふれあい ホワイトデイクッキー作り	ミルトの利用者	10名
子ども参加者（143名）高齢者（84名）一般（103名）利用者（81名）		※映画上映・えましかまつり不明	1040名

【今後へ向けて】

- (1) 社会資源である福祉施設が「地域コミュニティー」「街づくり」を働きかけ、居場所・役割ある「お互い様の地域」を創っていくこと
- (2) 地域住民と一緒に『街づくりの実践の積み重ね』が、地域住民が「～ために」for ⇒「～と共に」withへの拡がりを目指して「誰もが」「障がいのある方が」安心して生きやすい新冠町へとつなげていくこと
- (3) 子供たちが福祉に触れる環境づくり
(将来の担い手・当たり前にしていくために)

【最後に】

障がいがあるなしではなく、この町で住んでいる全ての住民（資源）が、本来の『地域の豊かさとはなにか』を10年後30年後の姿を見据えて、今から住民と一緒に考えていくことから始めよう！

スローガン「お互い様の地域づくり」を目指して！！
Do your Best Now（今最善を尽くそう）

ご清聴ありがとうございました。